

第2学年 図画工作科学習指導案

1 題材名 おもいでを かたちに

2 児童の実態と本題材の意図

(1) 児童の実態

(略)

(2) 題材について

本題材では、「自分の楽しかった思い出」や「うれしかった思い出」を基に、表したい場面をイメージして粘土で表す。人の形をつくり、動きのある状態で立たせるためにひねり出しの方法などを知ること、表したい場面を表す力を育てることをねらいとした題材である。

(3) 指導について

指導に当たっては、児童全員が共有できる学校での出来事から、様々な発想が出るように話し合う時間を設け、経験と感情と作品がつながる豊かな表現活動になるよう配慮していく。

本時の導入では、電子黒板を見ながら2年生になってからの楽しい出来事を思い出させる。また、参考作品を見ながら「どんな思い出かな、何をしているのかな」「どこからそう思ったのかな」などと投げかけ、粘土の向きや動きなどの表し方に着目させる。作り始める前に、書画カメラを使って粘土の基本技法を復習してから人間を作る活動につなげる。映像を見ることで、頭と首のつながりやうでの体のつながりをイメージさせ、そのイメージに合うように表し方を考えたり、工夫したりできるようにする。

3 題材の目標

- 生活の中で心に残っていることを粘土で表すときの感覚や行為を通して、いろいろな形、触った感じなどに気付く。(知識及び技能)
- 粘土、粘土べらに十分に慣れるとともに、手や体全体の感覚などを働かせ、表したいことを基に表し方を工夫して表す。(知識及び技能)
- いろいろな形、触った感じなどを基に、自分のイメージをもちながら、生活の中で感じたこと、想像したこと、表したいことを見付け、好きな形を選んだり、いろいろな形や色を考えたりしながら、どのように表すかについて考える。
(思考力・判断力・表現力等)
- いろいろな形、触った感じなどを基に、自分のイメージもちながら、自分たちの作品の造形的な面白さや楽しさ、表したいこと、表し方などについて、感じ取ったり考えたりし、自分の見方や感じ方を広げる。(思考力・判断力・表現力等)
- つくりだす喜びを味わい楽しく生活の中で心に残っていることを粘土で表す学習活動に取り組もうとする。(学びに向かう力、人間性等)

4 指導と評価の計画 4時間扱い (本時 1/4)

時	学習活動	学習内容	評価規準
① 本時	<ul style="list-style-type: none"> 思い出に残っている場面を思い出し、粘土で表したい場面を考える。 粘土の基本技法を確認し、人間を作る。 	<ul style="list-style-type: none"> ○粘土の基本技法 ○人間の作り方 	<ul style="list-style-type: none"> いろいろな形、触った感じなどを基に、自分のイメージをもちながら、生活の中で感じたこと、想像したことから、表したいことを見付け、好きな形を選んだり、いろいろな形や色を考えたりしながら、どのように表すかについて考えている。(思考力・判断力・表現力等)
2	<ul style="list-style-type: none"> 前時で学習した人間の作り方を基に思い出を粘土で表す。 	<ul style="list-style-type: none"> ○思い出に残っている場面を粘土で表す。 	<ul style="list-style-type: none"> 生活の中で心に残っていることを粘土で表すときの感覚や行為を通して、いろいろな形、触った感じなどに気付いている。(知識及び技能) つくりだす喜びを味わい楽しく生活の中で心に残っていることを粘土で表す学習活動に取り組もうとしている。(態度)
3	<ul style="list-style-type: none"> つくり方を工夫しながら粘土で表す。 	<ul style="list-style-type: none"> ○思い出に残っている場面を楽しく見えるように工夫する。 	<ul style="list-style-type: none"> 粘土、粘土べらに十分に慣れるとともに、手や体全体の感覚などを働かせ、表したいことを基に表し方を工夫して表している。(知識及び技能)
4	<ul style="list-style-type: none"> 友達と作品を見合い、面白さや楽しさを感じ取る。 	<ul style="list-style-type: none"> ○自分の作品に題名を付け、友達と見合う。 	<ul style="list-style-type: none"> いろいろな形、触った感じなどを基に、自分のイメージもちながら、自分たちの作品の造形的な面白さや楽しさ、表したいこと、表し方などについて、感じ取ったり考えたりし、自分の見方や感じ方を広げている。(思考力・判断力・表現力等)

5 本時の学習指導 4時間扱い (本時 1/4時間)

(1) 目標

自分のイメージをもちながら、学校生活の中から表したいことを見つけ、粘土の基本技法を使って人間をどのように表すかについて考えている。

(思考力・判断力・表現力等)

(2) 展開

学習活動	学習内容	○指導上の留意点(配慮・手立て) ◎評価 ★ICTの活用
1 本時の課題を知り、学習の見通しをもつ。 <ul style="list-style-type: none"> 思い出の写真を見る。 参考作品を見る。 		<ul style="list-style-type: none"> ★学校生活の中の様々な場面を電子黒板で提示し、出来事を振り返らせる。 ○自分の中で思い出に残っている場面は何かを想像させ、作品を作る意欲を持たせる声かけをする。 ○参考作品を見せ、粘土の表し方について着目させる。
「ねん土のわざ」をつかって人間を作ってみよう。		
2 粘土の基本的な技法を確認する。	<ul style="list-style-type: none"> ○粘土の基本的な技法 ・丸める・伸ばす ・押す・ねじる ・引っ張る・つまみ出す ・穴を開ける ・ひねり出す 	<ul style="list-style-type: none"> ★それぞれの技法を書画カメラで演示して見せ、ポイントを押さえる。 ○教師が演示した後、児童に作らせる。

<p>3 技法を活用して人間を作る。</p> <p>4 作った作品を友達と見せ合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ペア ・全体 <p>5 本時の活動を振り返り、次時の活動を知る。</p>	<p>○人間の形の作り方</p>	<p>★人間を作る工程を書画カメラで演示する。</p> <p>○作る人間の数や大きさによって粘土を分けるよう声かけをする。</p> <p>○細かい部分が取れないようにするために粘土のかたまりからつまみ出したりひねったりすることを指導する。</p> <p>○粘土べらの使い方も併せて指導し、人間をつくる時に活用させる。</p> <p>○机間指導の際、基本技法を使うことが難しい児童には、「どの部分をどのようにしたいか」を聞きながら作るよう声かけをする。</p> <p>◎自分のイメージをもちながら、学校生活の中から表したいことを見つけ、粘土の基本技法を使って人間をどのように表すかについて考えている。(思考・判断・表現)</p> <p>○隣や前後の友達で自分が作った人物の作品を見せ合う。</p> <p>○見せ合った後に感想やアドバイスを伝えるよう指導する。</p> <p>★書画カメラを使って作品を共有し、どこがどのようによいかを考えさせる。</p> <p>○技法や作り方を振り返り、次時も続けて作品を作るよう伝え、意欲を持たせる。</p>
---	------------------	--

6 板書計画（パソコンによるスライド）及び場の設定

(1) 板書計画

